

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	次年度に向けて (3月)	
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ ・多くの児童が基礎的な知識・技能の定着を図れているが、二極化している。 ＜指導上の課題＞ ・児童の理解度を把握し、指導に生かす必要がある。 ・個に応じた指導を展開していく必要がある。	⇒ ・本校の研修のテーマである「個別最適な学び」を実現するために校内で授業公開を行い、指導力の向上を目指す。【通年・全教員年間1回以上】 ・「スクールダッシュボード」を活用して、児童の理解度の把握に努め、次時の授業に生かす。【通年】 ・授業のめあてを工夫し、学習の目標を児童が決められるように授業を展開する。【通年】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ ・児童は失敗を恐れる傾向があり、自分の考え・思いを表現することが苦手である。 ＜指導上の課題＞ ・デジタルとリアル両面のよさを生かして様々な表現方法の指導をしていく必要がある。	⇒ ・評価の観点を明確に示し、児童が表現の仕方を見通しをもって進められるようにする。【通年】 ・様々な意見を受け入れられる雰囲気を作るために、互いに認め合える学級経営、授業経営を行う。【通年】 ・ICTを効果的に活用して、学習モデルや様々な表現方法を示すと共に、協働的な学習を進め、表現したいと思える課題を工夫する【通年】

⑤	評価(※)	調査結果学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	すべての教科の正答率について、国や県の平均を大きく上回っている。国語の正答率は7割後半から8割となっている。算数については8割の正答率であるが、2(2)台形の意味や性質についての問題の正答率が5割強のため、図形、特に台形を構成する要素について習熟を図る必要がある。理科においては、2(1)身の回りの金属の電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることについての問題の正答率が低かった。鉄だけが有する磁石に引き付けられる性質を理解できるように、日常生活で磁石を使って、様々な金属で試す機会があるように考える。金属が電気を通さないという性質も多かったため、電化製品で使われている金属について、授業で取り上げることも有効であると考えた。	
思考・判断・表現	全教科の正答率は、国・県の平均を上回ることができている。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」に関する平均値の差はわずかで、そのため、課題と考える。1-の目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかの問題で、話し手の意図を読み取る力に課題がある。また、3三(1)の目的に応じて必要な情報を見つけることができるかどうかの問題でも正答率が下がっており、必要な情報を整理して読み取る力にも課題がある。算数については、表現力・記述力や問題の意図を理解して答えるための読解力に課題がみられた。普段の授業から、問題の意図を読み取る力や答えを自分で表現したり、考えて記述したりする機会を増やすとよいと考える。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	・校内の授業公開は、2学期から行う予定である。 ・スクールダッシュボードの活用については、教職員へのアンケートで肯定的な回答が42%にとどまっている。使い方を知り、使いやすさを実感できるようにする必要がある。 ・学習の目標を児童が自己決定できるように、授業のめあてを工夫している教職員は96%に上った。引き続き、授業のめあてを工夫して、個に応じた指導を行う。
思考・判断・表現	A	・教職員アンケートによると、授業で評価の観点を示すことは85%、ICTを活用して学習モデルや表現方法を示した授業については88%、表現したくなる課題の工夫は96%、協働的な学習への意識は全職員が肯定的な回答をしている。 ・児童が表現方法を紙でリフレットにしたり、ICTを活用してスライドを作ったりして発表していた。学年が上がると、表現方法の工夫がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	引き続き、「個別最適な学び」の研修を続け、児童が課題解決へ自己決定する機会を多く取り入れるようにする。教師が、児童へ目標値を示すことで、意欲的に取り組む姿が今年度、多々見られた。児童が自分で目標値や学び方を決め、ゴールをイメージできるように支援を続けていく。	
思考・判断・表現	自分の考えを多様な形で表現できるようにしていく。タブレットだけの表現に限らず、文章、図や絵、表やグラフ等、多様な方法で自分の考えを表現できるように、児童が自分で表現方法を決められる機会を設けるようにする。また、難しそうな課題や長い文章等に対しても粘り強く取り組めるように支援をし、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 全体的に、基礎的、基本的な知識・技能の定着が図れている。しかし、個人差が大きく、二極化する傾向がある。 ＜指導上の課題＞ 児童自身が、学習を振り返る機会があまり設けられていない。	⇒ 「個別最適な学び」を研修のテーマとし、授業を改善している。学習が得意な児童は、さらに学力が向上するように、苦手な児童は、「わかる喜び」を感じることができるようにしていく。そのために、児童の学習状況を把握し、個に応じた習熟別学習を行う。
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 意欲的に学習に取り組んでいる児童は多いものの、国語の学習では、文章を記述する問題で無回答が目立つ。 ＜指導上の課題＞ 児童が多様な表現ができるように、工夫した授業を行うことが必要である。	⇒ 児童が、文章を記述したり、作品を制作したりする際は、事前に評価の観点を示し、児童が表現の仕方の見通しをもって臨めるように指導をする。また、児童には様々な作品の例を示し、多様な表現方法を知る機会を設ける。

⑤	評価(※)	調査結果授業改善策の達成状況
知識・技能	A	「個別最適な学び」についての職員研修を通して理解が深まり、授業に取り入れられるようになった。その際、児童が課題解決に向けての取組を自己決定できるように促した。それにより、個に応じた支援がしやすくなった。単元ごとの振り返りの時間を設け、児童の授業の理解度が高まった様子が見受けられた。
思考・判断・表現	A	児童が文章を記述したり作品を制作したりする際に、評価となるポイントを示した。そのポイントがあることで、児童が見通しをもって意欲的に取り組むようになった。また、中間発表会を設けたり、友達のことを気軽に見に行く機会を設けたりすることで思考が深まり、更によりよくしようと挑戦する児童が増えた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の(2)情報の扱い方に関する事項では、9割以上の正答率であった。(1)言葉の特徴や使い方に関する事項では、平均よりは上ではあるものの、差は大きくないため、さらに伸ばすことが課題である。算数においては平均を上回ることができた。しかし、円グラフの特徴を理解し、割合を読みとる問題において、平均を若干下回り、無回答率も高かったため、データの活用問題では、課題がある。	
思考・判断・表現	全国平均を上回ることができている。しかし、B書くことの記述式の問題において、平均値とあまり変わらない結果であった。特に、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えてたりする力を高めることが課題である。 算数でも、すべての項目で平均を上回ることができている。しかし、記述式の問題において無回答率が高いものもあり、課題がある。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの学年においても市の平均値を超えており、基礎的・基本的な知識・技能の定着は図れている。高学年の理科においては、市平均と近い数値となっている。科学的な言葉や概念の理解や、正しい観察の仕方の理解においてさらに知識・技能を高めていく	
思考・判断・表現	無回答率が減少しており、自分の考えを表そうとする意識の向上が見られる。高学年の社会科の思考・判断・表現の問題区分では、平均を大きく超えることができていた。中学年の算数のデータ活用については課題がある。グラフ等の資料から情報を読みとる力をつけていくことを今後高めていきたい。	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	「個別最適な学び」を研修のテーマとして各教員が取り組んでいる。タブレットを活用し、自分の目標に合った学習を選択し、取り組んでいる姿が見られる。
思考・判断・表現	A	タブレットに表す、ノートに書くなど多様な表現方法を示し、授業を行っている。活動の前に評価を示し、児童が目標を自分で決める姿も見られる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)